

2024年度（第15期）

事業報告

2024年4月 1日から

2025年3月31日まで

日本バレーボール協会

(Japan Volleyball Association)

1. 事業方針・重点実施項目	3
(1) 重点実施項目に対する取り組みの概要	
(2) 2024年度の課題と今後の目標	
2. 事業活動	5
2-1. 代表強化	5
2-1-1. 競技力向上事業及び競技力向上に係る日本代表選手団国際大会派遣事業	5
(1) 各カテゴリー日本代表チームの選手育成・強化事業	
(2) 各カテゴリー日本代表選手団の国際大会派遣事業	
2-1-2. 競技力向上に係る環境整備及び調査研究事業	12
(3) 競技活動を行う選手の競技・練習環境の整備、情報発信	
(4) 競技力向上にかかわるバレーボール技術・戦術の調査研究及び スポーツ医科学の調査研究事業	
2-1-3. 将来性を有する選手の発掘及び育成強化事業	13
(5) 将来性を有する選手の発掘及び育成強化事業	
2-2. 競技普及	15
2-2-1. 競技会開催事業	15
(1) 国際大会開催事業	
(2) 全国大会等国内競技会開催事業	
2-2-2. 講習会開催事業、指導者、審判員等養成及び資格認定・登録事業	22
(1) 指導者養成・育成事業	
(2) 審判員養成・育成事業	
(3) 審判員資格認定事業	
2-2-3. 競技者拡大活動	26
(1) Vリーグ選手と一緒にバレーボール教室	
(2) 中学校ビギナー選手バレーボール大会推進	
(3) 全国小中一貫バレーボール教室	
(4) 幼稚園・保育園等でのソフトバレーボール（風船等）実践	
(5) アンダー10大会促進	
(6) 競技環境の整備と競技人口減少への対策	
2-2-4. 登録システム構築事業	31
(1) JVAメンバー制度登録管理システム（Membership Registration System）	
2-2-5. アンチ・ドーピング事業	31
(1) 競技の高潔性維持とアンチ・ドーピングの遵守	
2-2-6. 国際交流事業	31
(1) 国際交流事業	
2-3. マーケティング	32

2-3-1. マーケティング事業	32
(1) 協賛企業獲得	
(2) グッズ事業	
(3) 肖像使用許諾事業	
(4) ファンクラブ事業	
(5) 用具・用品等の公認事業及びその他の公認物品販売事業	
2-4. 社会貢献	33
2-4-1. 社会貢献活動・環境問題への取り組み	33
(1) 社会貢献活動・環境問題への取り組み	
(2) 国際貢献事業	
2-5. 組織改革	34
2-4-1. 加盟団体との連携強化	34
(1) 法人格取得に向けた支援	
(2) 事業間の連携	
(3) 新リーグ支援	

重点実施項目に対する取り組みの概要

- 1) パリ五輪において世界を驚かせる戦いを見せ、日本中を熱狂の渦に巻き込む。
インドア: 女子はオリンピック出場権獲得を喫緊の必達目標とし、本大会では男女ともにメダルを獲得する。
ビーチ: 強化を継続し、男女ともにオリンピック出場権を獲得する。
インドア、ビーチともにオリンピック後も見据え、一貫した強化体制を構築する。
→インドアは男女ともオリンピック出場権を獲得。本大会では男女ともメダルには手が届かなかった。
ビーチバレーボールは女子代表がオリンピック出場権を獲得。本大会では9位(24年ぶりのベスト16進出)。男子は出場権を獲得できなかった。
- 2) 少子高齢化や部活動の地域移行に対応できるよう、競技者人口の実態を正確に把握するため「JVA登録制度」の見直しを実施する。また、各年代や競技種別のニーズにあった競技環境の整備を行い、競技スポーツ・生涯スポーツ双方の面から各種大会の価値向上を図る。
→JVA登録制度の見直しを実施し、新制度の導入に向けた加盟団体との合意形成を図った。一定程度の理解を得られたため、2026年度からの導入実現に向けて推進する。各種大会の見直しについては競技委員会と連携のうえ現状把握と見直しを進めていく。
- 3) ブランディングの推進、協賛企業にとって新しい価値となる活動の商材化、ファン体験の質の向上の3点をマネタイズにつなげていく。
→新エンブレムとブランディングを発表し、バレーボール界の連帯意識の構築に向けた第一歩を踏み出した。SVL/JVLとの連携プロジェクトも発足し、双方の価値を活用したマーケティングの検討に着手したため、今後具体的な施策を実行していく。またファン体験の創出に向けてJVA独自の日本代表イベントを計画するとともに、イベント・プロデュース・プロジェクトを立ち上げたため、インドア/ビーチ、国内大会/代表イベントを網羅して価値の向上を目指す。
- 4) 「つなぐ力」が生み出す価値を社会貢献に関する具体的なアクションに結び付け実行する。
→親子で参加できる体験型教育プログラムである「つなぐスクール」を活用し、JVA主催から開催ノウハウ共有まで、様々な形式で開催の実績を積むことができた。人のつながり、気持ちのつながりを大切にするという理念を実現するために、さらに規模を拡大していきたい。また環境保全等の社会貢献についても、競技特性を生かした活動を実施すべく引き続き企画検討に取り組んでいく。
- 5) 多くのステークホルダーから信頼感と期待感を寄せられる透明で誠実な組織運営を自らが実践し、また加盟団体にも波及させていくことで、競技発展に資する組織体制を整える。
→組織運営上、日々の業務におけるプロセス・手続きの精査・点検を行い、改善すべき点の具体化と対応を行った。また、加盟団体向けには法人運営の情報提供を継続的に行ってきた。今後も継続してバレーボール界全体でのガバナンス・コンプライアンス意識の徹底に向けて策を講じていく。
→今年度は不本意ながら、業務の進め方における不適切な点が見受けられたため、外部の弁護士による事実確認を行う事態が生じた。その結果、改めて組織体で動く意識の強化が必要であるとの指摘があったため、今後は鋭意改善を図っていく。

2024年度の課題と今後の目標

1. 管理会計システムの導入を活用した予算の分析を行い、戦略的な予算配分を実行する経営判断プロセスを実現する。
2. 限られた経営資源(予算・人材)で効果的な事業運営を行うため、優先度・重要度・費用対効果などを見直し、状況に応じて拡充や縮小・廃止を検討する。
3. 競技特性を活かした社会貢献活動を実現すべく、社会貢献委員会を中心に協議を行い、活動の具体化を実現する。
4. 中期経営計画のさらなる推進のために、事務局内の担当を明確化し、職員のマルチタスク化等により事務局内の連携を強化する。
5. 社会的課題(スポーツの地域移行、高齢化社会における競技者・指導者等の拡大)へ向けて、プロジェクトや委員会、事務局内担当部署において早期に協議を進めていく。
6. 組織改革の推進のための財政基盤となる登録制度改革を着実に実行する。
7. 本会の各事業や事務局の取組みにおいて、更なる連携の強化と業務を遂行する上でのルールの周知徹底を実践することで、組織としてのガバナンス体制の強化充実を図る。また、都道府県協会の法人化を加速させ、バレーボール界全体のコンプライアンス・ガバナンスを強化する。

★略称解説★

AVC	アジアバレーボール連盟 (Asian Volleyball Confederation)
BVT	ジャパンビーチバレーボールツアー
FISU	国際大学スポーツ連盟 (International University Sports Federation)
FIVB	国際バレーボール連盟 (Fédération Internationale de Volleyball)
JOC	公益財団法人日本オリンピック委員会 (Japanese Olympic Committee)
JSC	独立行政法人日本スポーツ振興センター (Japan Sport Council)
JSP0	公益財団法人日本スポーツ協会 (Japan Sport Association)
NF	各国のバレーボール協会 (National Federation)
NTC	味の素ナショナルトレーニングセンター (National Training Center)
VNL	バレーボールネーションズリーグ (Volleyball Nations League)
JVL	一般社団法人ジャパンバレーボールリーグ

<事業活動報告>

2-1. 代表強化

2-1-1. 競技力向上事業及び競技力向上に係る日本代表選手団国際大会派遣事業

(1) 各カテゴリー日本代表チームの選手育成・強化事業

【バレーボール】

1) 男子・女子日本代表チーム強化目標

男子、ブラン・フィリップ監督、女子、眞鍋政義監督体制で3年目を迎え、集大成となるパリオリンピックでのメダル獲得に向け強化を推進。女子はオリンピック出場権を獲得するため、5月中旬から6月下旬に開催されるVNLで勝ち星を取りこぼすことなく、世界ランキング上位の状態での出場権を獲得することができた。

2024年度はオリンピック前の実践の場がVNLのみであったが、男女共に2位となり、弾みをつけてオリンピックを迎えることができた。

■男子：国内合宿・NTCを中心に強化合宿を実施

2024年度の活動については、4月上旬に選手を招集し、NTC・国内合宿を実施。5月中旬にオランダ遠征を行ない、VNLブラジル大会に向けて強化・調整を行う。VNL大会は昨年同様、ファイナルラウンド進出し、昨年より順位を上げ2位となり、オリンピックに向けて順調に進むことができた。その結果、FIVBワールドランキングが2位に上昇、パリオリンピックに向けて十分な実践経験を積むことができた。

◇パリオリンピックに向けて

事前合宿としてポーランドに遠征（7月中旬）を実施、ポーランド（FIVBランキング1位）との強豪チームとフレンドリーマッチを実施し、オリンピック本番に備える。（2戦2勝）

2024パリ大会では、2020東京大会以上の成績を残す、すなわちベスト4以上、そしてメダル獲得を目指したが、最終結果は東京大会同様、7位で大会を終えることになった。順位は同様ではあったが、セミファイナルでの戦い（イタリア戦）は、2028年ロサンゼルス大会でのメダル獲得を期待できる内容であった。

■女子：国内合宿・NTCを中心に強化合宿を実施

2023-24シーズン女子Vリーグは早めにファイナルを終了し、3月上旬よりVNLへ向けて代表活動を始動した。VNL第1週はトルコ開催ということで事前にアメリカでの強化試合を実施しVNLへ臨む。VNL予選終了時点での世界ランキングにてオリンピック出場権が決定するため、ランキング下位チームに取りこぼすことなく万全な態勢で戦っていくことができた。

VNL 第3週で目標通り、オリンピック出場権を獲得ができ、VNL ファイナルラウンドにも進出、最終順位2位で終了しオリンピックに向けて万全なチーム状態を作ることができた。

◇パリオリンピックに向けて

パリ市近郊でコンディション調整を目的とした合宿を実施。オリンピックではメダル獲得へ向けて臨んだが、予選ラウンド敗退となりロンドン大会以来になるメダル獲得を達成することはできなかった。

(注) 日本代表チームとはトップレベル選手で構成された日本の代表チーム

2) 男子・女子ユニバーシアード日本代表チーム強化合宿

将来フル代表に入る可能性があるポテンシャルの高い選手が揃っている。

2024年度は主要国際大会の開催はないが、選抜合宿を積極的に実施し強化の継続を図ることができた。

■男子：国内合宿・NTC 及び他で実施

ポテンシャルの高い現役大学生選手は、日本代表で活動していく為、それ以外の選手を対象とした強化事業となる。東西の有望選手を集めた合宿を年二回実施、2025年 WUG 大会に向けた活動となる。コロナ禍で海外経験が不足している選手も存在している為、海外遠征（セルビア）を実施し、経験を積ませることができた。

事業名(期間)	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
男子東西大学強化合宿(NTC)(11/2-11/6)	NTC	4泊	5日	13名	30名
男子ユニバ合宿(セルビア)(2/13-2/28)	セルビア	15泊	16日	10名	16名

■女子：国内合宿・NTC 及び他で実施

2025年度のWUG大会へ向け新たにチームを結成し、代表活動にもつながる選手の育成強化を図った。試合経験も重要であることからJVL主催のサマーリーグへの参加、さらにはアジア東部地区大会へ参加し国際経験を積んでいき強化に努めた。

事業名(期間)	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
女子ユニバ日本代表合宿(5/27-5/31)	佐賀	4泊	5日	14名	22名
アジア東部地区選手権大会事前強化合宿(8/5-8/11)	愛知	6泊	7日	11名	14名

アジア東部地区選手権大会 (8/11-8/19)	香港	8泊	9日	8名	14名
女子ユニバ日本代表合宿 (2/20-2/25)	NTC	5泊	6日	10名	18名

(注) ユニバーシアードチームとは、主に大学生を中心に構成される日本の代表チーム

3) 男子・女子 U20 日本代表チーム強化合宿

コロナ前の活動状況に戻り、積極的に合宿を再開している。2024年度はアジア選手権において上位進出し、世界選手権出場権の獲得に向け強化を推進した。

※男女共に世界選手権の出場権を獲得することができた。

■男子：国内合宿・NTC 及び他で実施

アジア選手権で成果を出せていない理由の一つとして、合宿日数の確保があげられていたが、早期合宿実施などの改善策を実施することにより、成果につなげることができた。

※現状：アジア強豪国と比べ圧倒的に少ない (U18, U16 同様)。

事業名 (期間)	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
男子 U20 日本代表合宿(専修大学) (5/3-5/7)	神奈川	4泊	5日	7名	20名
男子 U20 日本代表合宿(大阪・インドネシア) (7/13-7/22)	大阪	9泊	10日	7名	14名
男子 U21 日本代表合宿(国内) (1/15-1/21)	NTC	6泊	7日	7名	20名

■女子：国内合宿・NTC 及び他で実施

女子 U20 日本代表は 2023 年世界選手権へ出場したが第 4 位という結果でメダルまで一歩であったが、2024 年は中国で開催予定のアジア選手権で世界選手権への出場権を獲得し、メダルが狙える強化を図っていくことができた。

事業名 (期間)	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
女子 U20 日本代表合宿 (4/22-4/26)	愛知	4泊	5日	4名	10名
女子 U20 日本代表合宿 (5/27-5/31)	佐賀	4泊	5日	7名	15名
女子 U20 日本代表合宿 (6/22-6/29)	神奈川	7泊	9日	10名	12名
女子 U20 アジア選手権大会 (6/29-7/11)	中国	12泊	13日	9名	12名
女子 U21 日本代表合宿 (11/25-11/29)	NTC	4泊	5日	7名	12名
女子 U21 日本代表合宿 (2/10-2/14)	NTC	4泊	5日	7名	14名
女子 U21 日本代表合宿・紅白戦 (3/12-3/16)	佐賀	4泊	5日	7名	12名

(注) 男子・女子 U20 日本代表チームとは、2005 年 1 月 1 日以降に出生した選手で構成

される日本の代表チーム

4) 男子・女子 U18 日本代表チーム強化合宿

U20 と同様、コロナ前の活動状況に戻り、積極的に合宿を再開している。2024 年度はアジア選手権において上位進出し、世界選手権出場権の獲得に向け強化を推進した。

※男女共に世界選手権の出場権を獲得することができた。

■男子：国内合宿・NTC 及び他で実施

2023 年 U19 世界選手権では、インターハイと日程が重なり、本来のチーム編成ができない状況で大会に参加。今回の 2024 年 U18 アジア選手権も同様、インターハイとスケジュールが重なっており、チーム編成が問題となっていたが、インターハイに出場しないメンバーで世界選手権の出場権が獲得できるよう、最善を尽くした。

事業名（期間）	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
男子 U18 日本代表合宿(愛知)(4/26-4/30)	愛知	4 泊	5 日	7 名	20 名
男子 U18 日本代表合宿(大阪)(7/16-7/20)	大阪	4 泊	5 日	7 名	14 名
男子 U19 日本代表合宿(薩摩)(12/3-12-7)	薩摩川内	4 泊	5 日	7 名	25 名
男子 U19 日本代表合宿(静岡)(2/18-2/21)	静岡	3 泊	4 日	7 名	20 名
男子 U19 日本代表合宿(大阪)(3/19-3/23)	大阪	4 泊	5 日	7 名	20 名

■女子：国内合宿・NTC 及び他で実施

女子 U18 日本代表は 2023 年世界選手権へ出場したが第 4 位という結果でメダルまで一步であったが、2024 年はタイで開催予定のアジア選手権で世界選手権への出場権を獲得し、世界でメダルが狙える強化を図っていくことができた。

事業名（期間）	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
女子 U18 日本代表合宿(4/15-4/19)	茨城	4 泊	5 日	3 名	18 名
女子 U18 日本代表合宿(5/13-5/17)	滋賀	4 泊	5 日	6 名	14 名
女子 U18 日本代表合宿(6/7-6/14)	兵庫	7 泊	8 日	8 名	20 名
女子 U18 アジア選手権大会(6/14-6/24)	タイ	10 泊	11 日	9 名	12 名
女子 U19 日本代表合宿(11/18-11/22)	NTC	4 泊	5 日	7 名	23 名
女子 U19 日本代表合宿(2/10-2/14)	NTC	4 泊	5 日	7 名	24 名
女子 U19 日本代表合宿紅白戦(3/12-3/16)	佐賀	4 泊	5 日	6 名	11 名

女子 U19 日本代表合宿 (3/16-3/23)	NTC	7泊	8日	4名	10名
---------------------------	-----	----	----	----	-----

(注) 男子・女子 U18 日本代表チームとは、2007年1月1日以降に出生した選手で構成される日本の代表チーム

5) 男子・女子 U17 日本代表チーム強化合宿

女子は2023年第1回 U16 アジア選手権で優勝し、2024年 U17 世界選手権出場権を獲得した。2024年度は本大会での上位進出を狙うべく強化を推進する。

男子は世界選手権の出場権を獲得できなかったが強化を継続し、有望選手の発掘など積極的な活動を推進する。

■男子：国内合宿・NTC 及び他で実施

アジア選手権で惜しくも敗れ、世界選手権の出場権を獲得することができなかったが、U16世代の強化が必須であり、次回大会に向けた強化を2024年度は実施していく。

事業名 (期間)	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
男子 U16 日本代表合宿 (NTC) (1/29-2/1)	NTC	3泊	4日	7名	23名
男子 U16 日本代表合宿 (NTC) (3/24-3/28)	NTC	3泊	4日	7名	20名

■女子：国内合宿・NTC 及び他で実施

女子 U16 日本代表は2023年アジア選手権で優勝し、2024年の世界選手権（ペルー）の出場権を獲得していた。2024年は国内・海外事前合宿を実施し強化を図り、世界選手権の本大会で銀メダルを獲得することができた。

事業名 (期間)	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
女子 U17 日本代表合宿 (5/7-5/11)	愛知	4泊	5日	4名	17名
女子 U17 日本代表合宿 (7/11-7/17)	滋賀	6泊	7日	5名	15名
女子 U17 日本代表合宿 (8/2-9)	滋賀	7泊	8日	5名	17名
女子 U17 日本代表海外事前合宿 (8/9-17)	ペルー	8泊	9日	5名	12名
女子 U17 世界選手権大会 (8/17-27)	ペルー	10泊	11日	7名	12名
女子 U16 日本代表合宿 (11/18-11/22)	NTC	4泊	5日	10名	24名
女子 U16 日本代表合宿 (2/10-2/14)	NTC	4泊	5日	7名	21名
女子 U16 日本代表合宿 (3/16-3/23)	NTC	7泊	8日	4名	14名

(注) 男子・女子 U17 日本代表チームとは、2008年1月1日以降に出生した選手で構成される日本の代表チーム

【ビーチバレーボール】

1) 男子・女子日本代表チーム強化活動

2023 年度に引き続き強化戦略プランに基づいた強化を推進し、2024 年度最大の目標であるパリオリンピックの出場権獲得を女子日本代表が実現した。ただ、男子は残念ながら出場権獲得ができなかった。パリオリンピック後の強化に向けた男女総監督として実績ある外国籍指導者の招集を行い、空白期間なく次のオリンピックに向けた準備に移行することができた。

コンチネンタルカップ…男子：5 位 女子：優勝

パリオリンピック…女子：長谷川暁子/石井美樹 9 位

2) 男子・女子アンダーカテゴリー強化活動

2023 年度に立ち上げたビーチエリートアカデミー事業を軸に、アンダーカテゴリー強化指定選手を対象とした定期的な練習会と合宿を行い継続的な強化を図れた。技術スキルの向上に併せて、世界で活躍できるトップアスリートに必要な素養を高めることも目指し、年間を通じた各種講習会を実施した。

U19 世代の国際大会と FISU 主催の世界大学選手権で、女子代表が好成績を残すことができた一方、男子代表は結果を残すことができず、今後の課題となった。

U19 アジア選手権：男子…川村侑聖/萩尾太一 17 位、稲垣喜一/山下聖斗 25 位

女子…宇都木乃愛/森愛唯 5 位、森川仁湖/矢田和香 9 位

U19 世界選手権：女子…宇都木乃愛/森愛唯 9 位(過去最高順位)

FISU 世界大学選手権：男子…水町奏社/安達龍一 33 位、

柏谷玲央/源田アシュリー 33 位

女子…伊藤桜/野口彩陽 5 位(過去最高順位タイ)

(2) 各カテゴリー日本代表選手団の国際大会派遣事業

【バレーボール】

1) 男子：

<日本代表>

・バレーボールネーションズリーグ 2024

Week 1	5/21-26	ブラジル
Week 2	6/4-9	日本
Week 3	6/18-23	フィリピン
FNL	6/27-30	ポーランド

・第 33 回オリンピック競技大会

(2024/パリ)

<アンダーエイジカテゴリー（年代別日本代表）>

- | | | |
|-----------------------|----------|--------|
| ・2024 男子 U20 アジア選手権大会 | 7/23-30 | インドネシア |
| ・2024 男子 U18 アジア選手権大会 | 7/28-8/4 | バーレーン |

2) 女子：

<日本代表>

- | | | |
|------------------------------|-----------|------|
| ・バレーボールネーションズリーグ 2024 | | |
| Week 1 | 5/14-19 | トルコ |
| Week 2 | 5/28-6/2 | マカオ |
| Week 3 | 6/11-16 | 日本 |
| FNL | 6/20-23 | タイ |
| ・第33回オリンピック競技大会
(2024/パリ) | 7/27-8/10 | フランス |

<アンダーエイジカテゴリー（年代別日本代表）>

- | | | |
|-----------------------|-----------------|----|
| ・2024 女子 U18 アジア選手権大会 | 6/16-23 | タイ |
| ・2024 女子 U20 アジア選手権大会 | 7/1-8 | 中国 |
| ・2024 女子 U17 世界選手権大会 | 8月中 FIVB 入札（未定） | |
| ・2024 東アジア地区女子選手権大会 | 8/13-18 | 香港 |

【ビーチバレーボール】

1) ビーチバレーボール男女日本代表チーム

- | | | |
|--------------------------|-----------|---------|
| ・第33回オリンピック競技大会(2024/パリ) | 7/27-8/10 | フランス |
| ・バレーボールワールドビーチプロツアー | 通年 | 世界各地 |
| ・2023 アジアビーチバレーボール選手権大会 | 未定 | オーストラリア |
| ・AVC ビーチツアーオープン | 通年 | アジア各地 |

2) ビーチバレーボール年代別男女日本代表チーム

- | | | |
|-------------------------------|----------|------|
| ・2024U19FIVB ビーチバレーボール世界選手権大会 | 8/27-9/1 | 中国 |
| ・第5回 U19 アジアビーチバレーボール選手権大会 | 5/1-5 | タイ |
| ・2024FISU 世界大学選手権大会 | 9/2-6 | ブラジル |

2-1-2. 競技力向上に係る環境整備及び調査研究事業

(3) 競技活動を行う選手の競技・練習環境の整備、情報発信

1) 味の素ナショナルトレーニングセンター バレーボール専用コート設備更新

- ① バレーボールマシンメンテナンス（一部 旧製品の譲渡処理等）
→サーブマシンの新調等を実施した。
- ② 備品のメンテナンス、管理情報更新作業
→アナリスト機材、テーピング等備品の新規購入による補充を行った。
- ③ 旧ボールバンク備蓄ボールの提供処理
→保管は行っているが、今年度は、提供はしなかった。

2) ビーチバレーボール競技別強化拠点（川崎マリエン）

- ① バックオフィス強化
- ② 情報戦略分野での継続支援
- ③ 医科学情報分野での人的リソース配備
- ④ 各種研修会による教育サポート
→上記各項目を実施した。

3) ビーチバレーボールアスナビ(仮)

ビーチバレーボールの普及を目的に、新規にビーチバレーボール版アスナビを立ち上げるべく活動を進めたものの、思うような進展ができなかった。次年度の実現に向け協力者の選任や準備活動は進められたため、次年度の実現を目指す。

(4) 競技力向上にかかわるバレーボール技術・戦術の調査研究及びスポーツ医科学の調査研究事業

1) 日本代表選手の科学的測定評価、測定結果に基づくトレーニング処方 of 立案とサポート

・男女日本代表選手バイメカ測定【2024年6月】

2) 日本代表チームとの対戦が想定される外国チームの戦力掌握

3) トレーナーおよびアナリストの育成、教育を行って日本代表チームに派遣するとともに、日本代表チームが利用する機材およびデータの管理・運用

・アナリスト育成セミナー【2025年2月】

・アンダーエイジカテゴリー日本代表選手体力測定

【2024年8月～2025年3月】

4) 日本代表チームにドクターを派遣し、歯科・整形外科診断を中心に選手の健康維持、怪我防止及び傷害発生時の対処、薬剤を手配

・男女日本代表選手へのメディカルチェック【2024年4月】

5) アンチ・ドーピングの啓発を含むスポーツ・インテグリティの向上をはかる

6) 感染症専門ドクターからの示唆を仰ぎ、コロナ感染症対策を十分に実施したうえで安心・安全なトレーニング環境を作る

・医師やトレーナーによる帯同報告会【2024年12月】

2-1-3. 将来性を有する選手の発掘及び育成強化事業

(5) 将来性を有する選手の発掘及び育成強化事業

1) 全国小学生・中学生・高校生長身選手の発掘育成事業

将来有望な長身選手の発掘、育成、強化を目的に、公募および推薦によるオーディションを行い、選抜した有望選手の育成強化合宿を実施した。そして、有望選手のリストを小学生・中学生から高校生までをデータ化し、選手情報を経年的に強化委員会等で共有している。また、年1回各カテゴリー（中学生・高校生）別の有望選手達による選抜チームを編成し、海外で外国人チームとの国際試合を行い、国際的に通用する選手の育成を行った。

◆小学生エリートアカデミーオーディション合宿

事業名（期間）	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
小学生エリートアカデミーオーディション合宿(8/13～15)	NTC	2泊	3日	18名	30名(男子)
					30名(女子)

◆小学生・中学生エリートアカデミー年末合宿

事業名（期間）	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
小学生・中学生エリートアカデミー年末合宿(12/25～28)	田辺スポーツパーク (和歌山県田辺市)	3泊	4日	17名	14名(男子小学生)
					13名(女子小学生)
					12名(男子中学生)
					8名(女子中学生)

◆全国中学バレーボール選抜強化(一次)合宿

事業名（期間）	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
全国中学選抜強化(一次)合宿(10/10～13)	オガールアリーナ 紫波町総合体育館	3泊	4日	27名	30名(男子)
					30名(女子)

◆全国中学バレーボール選抜強化(二次)合宿

事業名（期間）	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
全国中学選抜強化(二次)合宿 (1/9～12)	NTC	3泊	4日	13名	12名(男子)
					12名(女子)

◆中学選抜海外遠征

イタリア ボルデノーネで開催された「Nations Winter Cup」国際大会で男女優勝

事業名（期間）	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
全国中学選抜海外遠征 (2/17～25)	イタリア トリノ・ボルデノーネ	8泊	9日	11名	12名(男子)
					12名(女子)

◆全国中学生長身者合宿

事業名（期間）	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
全国中学生長身選手発掘育成合宿 (2/6～9)	NTC	3泊	4日	17名	29名(男子)
					30名(女子)

◆全国高校選抜候補一次合宿(全国9ブロック高校生長身者合宿)

事業名（期間）	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
北海道ブロック合宿 (8/23～25)	深川市総合体育館	2泊	3日	20名	24名(男子)
					24名(女子)
東北ブロック合宿 (8/23～25)	福島県福島市 あずま総合体育館	2泊	3日	15名	18名(男子)
					18名(女子)
関東ブロック合宿 (8/27～29)	東京都八王子市 エスフォルタアリーナ八王子	2泊	3日	23名	31名(男子)
					32名(女子)
北信越ブロック合宿 (11/29～12/1)	長野県岡谷市 岡谷東高等学校体育館	2泊	3日	31名	15名(男子)
					14名(女子)
東海ブロック合宿 (8/23～25)	愛知県 愛知学院大学	2泊	3日	16名	15名(男子)
					12名(女子)
近畿ブロック合宿 (8/26～28)	和歌山県立体育館	2泊	3日	23名	18名(男子)
					18名(女子)
中国ブロック合宿 (8/23～25)	山口県周南市 ゼオンアリーナ周南	2泊	3日	30名	18名(男子)
					16名(女子)
四国ブロック合宿 (8/25～27)	愛媛県総合体育館	2泊	3日	21名	14名(男子)
					14名(女子)
九州ブロック合宿	宮崎県都城市早水公園体育文	2泊	3日	25名	27名(男子)

(8/18～20)	化センター				23名(女子)
-----------	-------	--	--	--	---------

◆高校選抜海外遠征

事業名(期間)	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
高校選抜海外遠征 (8/27～9/1)	男子/インドネシア 女子/タイ	5泊	6日	14名	12名(男子)
					12名(女子)

◆高校選抜候補第二次合宿・全日本ジュニアオールスタードリームマッチ

有料観客にて実施(観客動員数は2,085名)

事業名(期間)	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
高校選抜候補二次合宿 全日本ジュニアオールスタードリー ムマッチ(2/21～23)	エスフォルタ アリーナ八王子	2泊	3日	34名	52名(男子)
					51名(女子)

◆高校選抜候補強化合宿

事業名(期間)	場所	期間		人数	
		泊	日	役員	選手
高校選抜候補強化合宿(3/19～23)	墨田総合体育館	4泊	5日	20名	24名(男子)
					24名(女子)

2-2. 競技普及

2-2-1. 競技会開催事業

(1) 国際大会開催事業

1) バレーボールネーションズリーグ2024男女福岡大会

- ・会場： 西日本総合展示場(福岡県北九州市)
- ・日程： 男子大会 6月4日(火)～6月9日(日)
女子大会 6月11日(火)～6月16日(日)
- ・参加チーム： 男子大会 ブラジル、ポーランド、スロベニア、イラン
トルコ、ブルガリア、ドイツ、日本
女子大会 アメリカ、イタリア、セルビア、オランダ、カナダ、
フランス、韓国、日本

2) 2024男子バレーボール国際親善試合 日本B対ドイツ 岩手大会

- ・会場： 紫波町総合体育館（岩手県紫波郡）
- ・日程： 6月14日（金）～6月15日（土）

（2）全国大会等国内競技会開催事業

【バレーボール】

1) 天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会

バレーボール6人制競技（参照：https://www.jva.or.jp/for_begginers/）における国内最高峰の大会と位置付け、JVAに登録された中学生以上のチームが日本一の栄誉を競う大会として以下の日程で実施した。

■都道府県ラウンド（都道府県代表男女各1チームを選出）

- ・開催期間： 4月28日～7月21日
- ・開催都市： 各都道府県内体育館

■ブロックラウンド（ブロック代表男女各16チームを選出）

- ・開催期間： 9月7日～10月20日
- ・開催都市： 各ブロック内体育館

■ファイナルラウンド：男子24チーム、女子24チーム

（ブロック代表16チームにV1所属（2023-24シーズン）上位男女各8チームを加え開催）

- ・開催期間：
 - 【第1週】12月12～15日（1回戦～準決勝）
 - 【第2週】12月21・22日（女子決勝・男子決勝）
- ・会場：Asueアリーナ大阪（大阪市中央体育館）
- ・優勝：
 - 【男子】サントリーサンバーズ大阪（13大会ぶり2回目）
 - 【女子】ヴィクトリーナ姫路（初優勝）
- ・来場者数：
 - 12/12 1回戦 1,610名
 - 12/13 2回戦 3,140名
 - 12/14 準々決勝 3,846名
 - 12/15 準決勝 2,759名
 - 12/21 女子決勝 1,752名
 - 12/22 男子決勝 4,911名 合計 18,018名

2) 全日本小学生大会（男女・混合大会）

「ワクワク ドキドキ よしっ!!」～誰もがワクワク、ドキドキする大会に～を2024年度の大会テーマとし、前年に引き続きロンドンオリンピック銅メダリストの木村沙織氏を大会アンバサダーとしてお迎えして、以下の日程で実施した。

■都道府県大会

- ・開催期間：4月～7月
- ・開催都市：各都道府県内体育館

■全国大会

（男子 51 チーム[579名]、女子 51 チーム[550名]、混合 50 チーム[545名]

- ・開催期間：8月6～9日
- ・会場：東京体育館、町田市立総合体育館、墨田区総合体育館、相模原ギオンアリーナ、小田原アリーナ、千葉ポートアリーナ
- ・優勝：
【男子】幸袋（福岡県）
【女子】鞍手 JVC（福岡県）
【混合】KAISERS（大阪府）

3) JOC カップ全国都道府県対抗中学大会

中学生年代における、将来日本代表チームで活躍が期待される次世代有望選手の発掘を目的として実施した。今大会も、大会を幅広く観戦（視聴）できる取り組みとして、読売テレビと試合のインターネット配信を行った。また、将来的な運動部活動の地域移行に伴う、チーム構成の変化にも対応していく必要があり、選手選考における身長規定などの見直しも検討していく。

- ・開催期間：12月25～28日
- ・会場：Asue アリーナ大阪（大阪市中心体育館）、大阪市立港スポーツセンター、エディオンアリーナ大阪（大阪府立体育会館）、大阪市立浪速スポーツセンター
- ・優勝：
【男子】東京都（2大会ぶり8回目）
【女子】京都府（初優勝）

4) 全日本高等学校選手権大会

全国の高校生プレイヤーが、夢のセンターコートを憧れる大会として、厳しい都道

府県予選会を勝ち抜いた男女各 52 チームが参加して大会を実施した。今年度も、涙と笑顔の溢れる熱い戦いが繰り広げられた。

- ・開催期間： 2025 年 1 月 5～12 日
- ・会場： 東京体育館
- ・優勝：
【男子】駿台学園（3 年連続 4 回目）
【女子】共栄学園（19 年ぶり 3 回目）
- ・来場者数：
1/5 1 回戦 26,883 名
1/6 2 回戦 16,526 名
1/7 3 回戦・準々決勝 8,486 名
1/11 準決勝 13,162 名
1/12 決勝 12,179 名 合計 77,236 名

5) 秩父宮賜杯・秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会

大学日本一を決定する大会として、男女各 64 チームが参加して大会を実施した。今大会も男女ともに各会場で両チーム譲らぬ熱い戦いが繰り広げられた。決勝戦を船橋アリーナで実施し、男子は専修大学が初優勝し、女子は筑波大学が 2 年連続 10 回目の優勝に輝いた。

■秩父宮賜杯全日本大学選手権大会（男子）

■秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会（女子）

- ・開催期間： 11 月 26 日～12 月 1 日
- ・会場：東京体育館、川崎とどろきアリーナ、エスフォルタアリーナ八王子、立川泉市民体育館、上尾市民体育館、船橋アリーナ
- ・優勝：
【男子】専修大学（初優勝）
【女子】筑波大学（2 年連続 10 回目）

6) 上記の各競技会に加え、JVA 主催、開催地都道府県協会等の主管により、以下の各種別全国大会を開催した。

大会名等	開催期間	開催都市
第10回全日本9人制バレーボールトップリーグ 女子レギュラーラウンド	6/15～7/15	広島県、大阪府、 鹿児島県、北海道
女子ファイナルトーナメント	8/3～4	東京都 墨田区
男子横浜ラウンド	9/21～22	神奈川県 横浜市
男子大阪ラウンド	9/21～22	大阪府 大阪市
男子沖縄ラウンド	10/12～14	沖縄県国頭郡
男子広島ファイナルラウンド	12/13～15	広島県 広島市
第76回全日本9人制実業団女子選手権大会 第77回全日本9人制実業団男子選手権大会	7/13～15	東京都 日野市、 羽村市、立川市
第43回全日本9人制クラブカップ女子選手権大会	8/9～12	奈良県 香芝市、 橿原市、大和郡山市
第43回全日本9人制クラブカップ男子選手権大会	7/25～28	山口県 山口市
第23回全国社会人東ブロック男女優勝大会	11/1～4	岐阜県 関市、山県市
第23回全国社会人西ブロック男女優勝大会	10/18～21	愛媛県 松山市
第93回全日本9人制総合女子選手権大会	11/23～24 12/1	和歌山県 和歌山市 大阪府 枚方市
第94回全日本9人制総合男子選手権大会	11/14～17	長野県 松本市、安曇 野市、大町市、池田町
第15回全国6人制バレーボールリーグ 総合男女優勝大会（地域リーグ） （東西決勝リーグ） （グランドチャンピオンマッチ）	4～12月 2025年1～3月 2025年3月	全国 各地 全国 各地 山梨県 甲府市
第72回黒鷲旗全日本男女選抜優勝大会	5/1～6	大阪府 大阪市
第43回全日本6人制クラブカップ女子選手権大会	8/2～5	大阪府 大阪市、 和歌山県 和歌山市
第43回全日本6人制クラブカップ男子選手権大会	8/10～13	青森県 青森市
第27回全国ヤングクラブ優勝大会 女子	9/14、15	和歌山県 和歌山市 大阪府 門真市ほか
第27回全国ヤングクラブ優勝大会 男子	9/15、16	大阪府 門真市ほか
第13回全国ソフトバレースポレクフェスティバル	9/27～29	栃木県 宇都宮市
第26回全国ソフトバレーレディースフェスティバル	9/13～15	宮崎県 宮崎市
第32回全国ソフトバレーシルバーフェスティバル	11/8～10	福井県 福井市
第9回全国ソフトバレー・フリーフェスティバル	11/23、24	神奈川県 大和市
第15回全国ヴィンテージ8's交流大会	10/18～20	石川県 金沢市

7) 公益財団法人日本スポーツ協会（JSP0）との共催により、以下の大会を開催した。

- 1) 国民スポーツ大会 SAGA2024（6人制）

- ・日程： 10/6～9
- ・開催都市： 佐賀県小城市、佐賀市、吉野ヶ里町、みやき町、鳥栖市市

2) 第 24 回日本スポーツマスターズ 2024

- ・日程： 9/28～10/1
- ・開催都市： 長崎県島原市、雲仙市、佐世保市

8) 公益財団法人全国高等学校体育連盟との共催により、以下の大会を開催した。

1) 全国高等学校総合体育大会女子バレーボール競技

- ・日程： 7/25～29
- ・開催都市： 大分県中津市、日田市

2) 全国高等学校総合体育大会男子バレーボール競技

- ・日程： 7/31～8/4
- ・開催都市： 大分県日田町

3) 第 51 回全国高等学校定時制・通信制大会

- ・日程： 7/30～8/3
- ・開催都市： 神奈川県平塚市

9) 公益財団法人日本中学校体育連盟との共催により以下の大会を開催した。

1) 第 54 回全日本中学校バレーボール選手権大会

- ・日程： 8/22～25
- ・開催都市： 福井県福井市

【ビーチバレーボール】

1) ジャパンビーチバレーボールツアー2024

2024 年度は各分野の専門委員を含めたツアー実行委員会を設置し、お台場会場の復活や都市型開催の大会に関してはグランドスラム大会と称して、以下の通り大会を実施。

第 1 戦	平塚大会	5/10～12	神奈川県平塚市
第 2 戦	都城大会	5/31～6/2	宮崎県都城市
第 3 戦	大阪大会（グランドスラム大会）	6/8～9	大阪府大阪市
第 4 戦	立川立飛大会（ナイター開催）	7/13～14	東京都立川市
第 5 戦	青森大会	8/30～9/1	青森県青森市
第 6 戦	名古屋大会（グランドスラム大会）	9/21～23	愛知県名古屋市

第 7 戦	お台場大会（グランドスラム大会）	9/28～29	東京都港区
第 8 戦	須磨大会	10/4～6	兵庫県神戸市
第 9 戦	松山大会	10/25～27	愛媛県松山市
第 10 戦	横浜大会（グランドスラム大会）	11/8～10	神奈川県横浜市

※上記日程は、2024 年 1 月 31 日現在の予定

2) 第 79 回国民スポーツ大会ビーチバレーボール種目

- ・ 日程： 9 月 14 日～17 日
- ・ 開催都市： 佐賀県伊万里市

3) 日本選手権

大会名等	開催期間	開催都市
第 36 回全日本ビーチバレー大学選手権大会 アクティオ杯ビーチバレーボールジャパンカレッジ 2024	8/6～8	神奈川県川崎市
第 23 回全日本ビーチバレーボール高校男子選手権大会 ビーチバレーボールジュニア男子選手権大会	8/9～11	大阪府阪南市
第 28 回ビーチバレーボールジャパン女子高校選手権大会 '24 マドンナカップ in 伊予市	8/9～11	愛媛県伊予市
第 38 回全日本ビーチバレーボール男子選手権大会 第 38 回ビーチバレージャパン	8/11～13	神奈川県藤沢市
第 15 回全日本ビーチバレーボール 4 人制中学選手権大会 第 15 回湘南藤沢カップ	8/17～18	神奈川県藤沢市
第 35 回全日本ビーチバレーボール女子選手権大会 ビーチバレージャパンレディース	8/23～25	大阪府泉南郡岬町
第 5 回全日本ビーチバレーボール中学選手権大会 第 5 回 HEKINAN マンモスカップ	8/24～25	愛知県碧南市

4) その他国内主要大会

大会名等	開催期間	開催都市
ビーチバレーボール NEXT2024 第 6 回全日本ビーチバレーボール U-23 男女選抜優勝大会	7/19～21	兵庫県明石市
第 16 回ビーチバレーボール川崎市長杯	10/12～13	神奈川県川崎市

【「SV. LEAGUE」および「V. LEAGUE」】

1) 「SV. LEAGUE」および「V. LEAGUE」の開催支援事業

2024 年に発足した「SV. LEAGUE」および「V. LEAGUE」に、本会は共催として、バレーボールの普及・振興に寄与する目的で、大会にジュリーと審判員の派遣を行い、試合運営ならびに開催支援を行った。また、相互の連携を定期的実施し、新リーグの目指すバレーボールのビジネス化と地域共生のコンセプトを支持し、バレー

ーボール自体の認知度と価値の向上に努める。

2-2-2. 講習会開催事業、指導者、審判員等養成及び資格認定・登録事業

(1) 指導者養成事業 ※新規指導者資格受講希望者の養成

各種別の指導者を対象に以下の主な養成講習会及び研修会を開催した。

1) JSPO 公認スポーツ指導者養成事業（資格認定講習会）

➤ コーチ4 専門科目講習会の開催

期 間： 8月7日（水）～8月11日（日）

場 所：

味の素ナショナルトレーニングセンター（東京都）

TKP 品川カンファレンスセンター（東京都）

合格者数： 20名

➤ コーチ3 専門科目講習会の開催

期 間： 8月7日（水）～8月10日（土）

場 所：

味の素ナショナルトレーニングセンター（東京都）

TKP 品川カンファレンスセンター（東京都）

合格者数： 111名

➤ コーチ2 専門科目講習会の開催

場 所： 全国2会場（千葉県・静岡県）

合格者数： 74名

➤ コーチ1 専門科目講習会の開催

場 所： 全国29会場

（北海道・宮城県・福島県・群馬県・埼玉県・東京都・神奈川県・山梨県・長野県・新潟県・富山県・石川県・福井県・静岡県・愛知県・三重県・岐阜県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県・島根県・岡山県・山口県・徳島県・佐賀県・鹿児島県）

合格者数： 1,315名

➤ コーチ1 専門科目講習会の開催（全日本大学連盟）

期 間： 3月1日（土）・3月2日（日）・3月3日（月）

場 所： 日本体育大学 世田谷キャンパス（東京都）

合格者数： 116名

➤ コーチ1専門科目講習会の開催（日本クラブ連盟）

期 間： 11月9日（土）・11月10日（日）・11月24日（日）

場 所：

紫波町情報交流館（オガールプラザ中央棟）（岩手県）

オガールアリーナ体育館（岩手県）

合格者数： 76名

2) JVA 公認指導者の養成事業（日本小学生連盟）

➤ 小学生指導者資格一次講習会の開催

場 所： 全国5会場（青森県・福島県・長崎県・山梨県・兵庫県）

合格者数： 384名

➤ 小学生指導者資格二次講習会の開催

場 所： 全国4会場（北海道・宮崎県・高知県・千葉県）

合格者数： 155名

3) ソフトバレーボール指導者養成講習会・研修会の開催

➤ 名誉マスターリーダー認定

2024年度認定者： 7名

➤ マスターリーダー養成講習会の開催

期 間： 6月22日（土）～6月23日（日）

場 所：

TKP 品川カンファレンスセンターANNEX（東京都）

日本体育大学 世田谷キャンパス（東京都）

新規合格者： 27名

更新受講者： 46名

➤ アクティブリーダー養成講習会の開催

場 所： 全国13会場（秋田県・島根県・新潟県・石川県・広島県・長野県・大阪府・三重県・愛媛県・栃木県・愛知県・佐賀県・秋田県）

受講者数： 369名

➤ アクティブリーダー研修会の開催

場 所： 全国39都道府県44会場

受講者数： 861名（新規研修者：549名、更新研修者：312名）

4) JSP0 公認スポーツ指導者・JVA 公認指導者の養成講習会における講師育成を目的として講習会を開催

➤ JVA 公認講師認定講習会の開催

期 間： 12月21日（土）

場 所： AP品川（東京都）

認 定 者： 13名

5) 指導者育成事業 ※資格保有者の資格更新研修会およびスキル向上研修会

➤ JVA バレーボールコーチカンファレンス 2024

期 間： 12月8日（日）

場 所： 一橋大学一橋講堂（東京都）

更新者数： 83名（更新研修対象者）

➤ 都道府県別研修会

場 所： 全国15会場（群馬県・山口県・宮崎県・岡山県・東京都・熊本
県・佐賀県・埼玉県・神奈川県・滋賀県・富山県・広島県・岐阜
県・京都府・三重県）

➤ 日本実業団連盟研修会

期 間： 11月23日（土）～11月24日（日）

場 所： 燕市分水総合体育館（新潟県）

➤ 日本中体連研修会

場 所： 全国10会場（滋賀県・新潟県・香川県・沖縄県・北海道・岐阜
県・山形県・鳥取県・埼玉県・東京都）

6) ビーチバレーボール指導者研修会の開催

期 間： ①12月7日（土）

②2月8日(土)

③3月20日(木・祝)

会 場：①トヨタ自動車株式会社衣浦工場(愛知県)

②湘南ベルマーレひらつかビーチパーク(神奈川県)

③神港学園高等学校(兵庫県)

(2) 審判員養成・育成事業

国際大会における国際審判員の派遣および国内競技会の審判員派遣とともに、円滑な競技会運営のために、6人制・9人制・ビーチバレーボールの審判技術向上と審判員の養成・育成を目的に、主な事業を下記により開催した。

■ 審判員養成・育成事業		
インターナショナルレフェリー技術強化事業		
①海外遠征派遣事業	8月27日～9月1日	高校選抜遠征に帯同
ナショナルレフェリー技術強化事業		
～6人制～		
①トップレフェリー技術強化事業		
①-1 関東・東海・関西大学男子1部リーグ (春季・秋季)	4月～5月 9月～10月	(春季) (秋季)
①-2 S1レフェリー認定講習会	6月28日～30日 7月5日～7日	熊本県(V/サマーリーグ西部大会) 石川県(V/サマーリーグ東部大会)
①-3 S1・S2レフェリー技術強化事業	8月8日～13日 11月28日	大阪 近畿大学 東京 スーパーカレッジ男女大学選手権大会
①-4 S3レフェリー技術強化事業	5～8月	各ブロックへの講師派遣
② Eスクール(語学研修)	5月3日～6日 8月27日～29日 12月21日～22日	九州産業大学 愛知学院大学 天理大学
③ 6人制A級審判員技術強化事業	11月21日 11月26日～27日	Web 東京 スーパーカレッジ男女大学選手権大会
④ A級審判員資格取得審査講習会	8月8日～12日	大阪 近畿大学
～9人制～		
① トップレフェリー技術強化事業		
①-1 N1レフェリー認定事業	5月2日～4日	大阪

①-2 N2 レフェリー技術強化事業	5～8月	各ブロックへの講師派遣
② 9人制A級審判員技術強化事業	6月26日 6月29日～30日 11月13日 11月16日～17日 12月7日～8日	オンラインクリニック 静岡県 オンラインクリニック 熊本県 北海道
③ 9人制レフェリー育成事業	4月28日～29日	大阪
～ビーチバレーボール～		
① トップレフェリー技術強化事業		
①-1 B1 レフェリー認定事業	4月13日～14日	静岡県浜松市
①-2 B2 レフェリー技術強化事業	5～8月	各ブロックへの講師派遣
② Eスクール（語学研修）	6人制に準ずる	
③ ビーチバレーボールA級審判員技術強化事業	8月6日～8日	ビーチバレー・ジャパン・カレッジ2024
④ ビーチバレーボールレフェリー育成事業	7月19日～21日	全日本ビーチバレーボールU-23男女選抜優勝大会

（3）審判員資格認定事業

審判員の資格審査認定講習会を開催し、登録部が審判員の登録を管理する。

- A級審判員 ○A級候補審判員 ○B級審判員
○C級審判員 ○ビーチバレーボール審判員

2-2-3. 競技者拡大活動

競技者の更なる拡大・競技の継続に向け、“学校教育現場（小学生・中学生）におけるバレーボールプログラム”などの事業を継続して実施し、競技者拡大を図ることを念頭に、昨年度は以下の事業を実施した。

1) Vリーグ選手と一緒にバレーボール教室

	開催 都道府県	場所	開催日	人数	
				指導者	参加者
1	群馬県	渋川市子持社会体育館	7月6日	4名	109名(経験有)
					5名(未経験)
					161名(保護者)
2	鹿児島県	喜界町立喜界中学校体育館	9月29日	4名	35名(経験有)
					5名(未経験)

					20名(保護者)
3	岡山県	岡山市瀬戸町総合運動公園体育館	10月14日	4名	44名(経験有)
					0名(未経験)
					55名(保護者)

2) 中学校ビギナー選手バレーボール大会推進

	開催ブロック	場所	開催日	参加チーム数
1	北海道 ブロック	札幌市内各中学校	11月10日 11月17日 11月24日	女子：69チーム
2	東北 ブロック	宮城県日本ウェルネス宮城 高等学校	1月12日	女子：6チーム
3	関東 ブロック	茨城県常総市内中学校 下妻市内中学校 筑西市内中学校	2月22日 2月24日	男子：9チーム 女子：18チーム
4	関東 ブロック	東京都内中学校	1月26日	男子：35チーム 女子：132チーム
5	東海 ブロック	岐阜県山県市総合体育館	12月22日	男子：10チーム 女子：10チーム
6	近畿 ブロック	滋賀県ウカルちゃんアリーナ	2月23日	男子：2チーム 女子：12チーム
7	中国 ブロック	島根県鹿島総合体育館	11月30日	男子：4チーム 女子：8チーム
8	九州 ブロック	佐賀県白石町福富社会体育館	2月15日	男子：5チーム

3) 全国小中一貫バレーボール教室

	開催 都道府県	場所	開催日	人数	
				指導者	参加者
1	高知県	香南市野市総合体育館	1月5日	2名	92名(経験有)
					0名(未経験)
					20名(保護者)
2	山口県	菊川べるちゃん体育館	2月1日	2名	136名(経験有)
					0名(未経験)
					40名(保護者)

4) 幼稚園・保育園等でのソフトバレーボール（風船等）実践

	開催 都道府県	場所	開催日	参加人数	
				指導者	園児
1	長野県	昭和保育園	8月27日	5名	42名
2	栃木県	ポッポ保育園	1月7日	10名	30名
3	京都府	海印寺こども園	6月27日	6名	48名
4	山口県	周南市立菊川幼稚園	11月3日	7名	18名
5	高知県	高知市立潮江第二双葉園	1月29日	4名	15名

5) アンダー10大会促進

	開催 都道府県	場所	開催日	参加人数
1	北海道	深川市総合体育館	7月27日～ 28日	男子：51名 女子：127名 混合：127名 合計：305名
2	青森県	三沢市国際交流スポーツセンター 他	9月8日	男子：20名 女子：70名 混合：138名 合計：228名
3	岩手県	八幡平市総合運動公園体育館 他	8月31日 9月1日	男子：75名 女子：132名 混合：138名 合計：345名
4	山形県	山形市総合スポーツセンター	9月16日	男子：37名 女子：99名 混合：73名 合計：209名
5	宮城県	宮城県加美町陶芸の里スポーツ 公園総合体育館	7月28日	混合：300名 合計：300名
6	福島県	新地総合体育館 他2会場	9月22日	男子：140名 女子：293名 合計：433名
7	茨城県	ザ・ヒロサワ・シティ体育館、 小川南小学校体育館 他	12月14日	男子：61名 女子：257名 混合：141名 合計：459名

8	群馬県	いずみ総合公園大泉町民体育館 他5会場	7月14日	男子：33名 女子：164名 混合：221名 合計：418名
9	東京都	世田谷区立太子堂小学校 他	7月21日～ 12月15日	男子：500名 女子：850名 混合：950名 合計：2,300名
10	山梨県	笛吹市境川スポーツセンター体育 館、 若彦路体育館、昭和町総合体育館	9月16日	男子：48名 女子：174名 混合：198名 合計：420名
11	長野県	安曇野市明科体育館 他6会場	11月16日 11月17日	男子：168名 女子：392名 混合：182名 合計：742名
12	福井県	勝山市体育館（ジオアリーナ）	9月23日	男子：230名 女子：60名 合計：290名
13	静岡県	島田市総合スポーツセンター ローズアリーナ	8月10日	男子：21名 女子：23名 混合：23名 合計：67名
14	三重県	員弁運動公園体育館	3月1日	男子：26名 女子：83名 混合：51名 合計：160名
15	滋賀県	滋賀県米原双葉総合体育館	11月23日	男子：16名 女子：53名 混合：215名 合計：284名
16	京都府	舞鶴文化公園体育館	8月18日	男子：18名 女子：116名 混合：81名 合計：215名
17	奈良県	田原本中央体育館	12月21日	混合：108名 合計：108名
18	大阪府	いきいきランド交野	9月16日	男子：12名 女子：32名 混合：198名 合計：242名

19	島根県	八束体育館・八束学園第一体育館	10月20日	女子69名 混合：68名 合計：137名
20	岡山県	岡山市瀬戸町総合運動公園体育館	9月8日	男子：62名 女子：254名 混合：196名 合計：512名
21	山口県	ゼオンアリーナ周南	6月23日	男子：0名 女子：0名 混合：45名 合計：45名
22	香川県	観音寺総合体育館・ とらまるてぶくろ体育館	11月16日 11月30日	高学年：260名 低学年：185名 合計：445名
23	高知県	香北町体育センター・大宮小学校 体育館・香北中学校体育館・芸西 憩ヶ丘体育館	11月4日～ 12月8日	男子：77名 女子：159名 合計：236名
24	福岡県	水城小学校体育館 他	10月6日	男子：38名 女子：75名 混合：117名 合計：230名
25	佐賀県	佐賀県8地区 8会場（鳥栖、三 神、佐賀、小城多久、杵武、伊西、 唐松、藤津鹿島）	10月1日～ 12月30日	男子：120名 女子：200名 混合：80名 合計：400名
26	長崎県	小佐々スポーツセンター、 佐世保市総合グラウンド体育館、 他	12月21日	男子：190名 女子：302名 混合：263名 合計：755名
27	大分県	大分市立野津原小学校・由布市立 石城小学校	11月24日	男子：31名 女子：45名 混合：38名 合計：114名
28	沖縄県	豊見城市民体育館 他	7月27日 7月28日	男子：176名 女子：560名 混合：512名 合計：1,248名

(6) 競技環境の整備と競技人口減少への対策

1) 実態把握と対策

競技者拡大委員会を中心に幼稚園・小学校・中学校・高校の競技者の実態把握と分析を行い、各カテゴリーと連携し、継続して今後の対策を講じた。

2) 部活動改革プロジェクトの発足

部活動の地域移行への対応の為に、本年度に部活動改革プロジェクトを立ち上げ、各地域における現状の部活動状況の情報収集を行い、今後の対応を検討した。

2-2-4. 登録システム構築事業

(1) JVA メンバー制度登録管理システム (Membership Registration System)

都道府県バレーボール協会の法人格取得を推進するにあたり、組織基盤改革プロジェクトで検討された都道府県協会の財政基盤を確立する取り組みの一つとしてシステムの再構築（改修）検討を実施した。JVA メンバー制度登録管理システム（JVA-MRS）における登録者側、運用者側双方の目線での利便性を改善し、選手、チーム等の登録推進を図りたい。2025 年度にシステムの改修を行い、2026 年度からシステム運用（アップデート）を計画している。

2-2-5. アンチ・ドーピング事業

(1) 競技の高潔性維持とアンチ・ドーピングの遵守

公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構（JADA）との連携を図り、ドーピング検査の実施や教育・啓発活動を推進した。特に、日本代表選手（アンダーエイジカテゴリーを含む）やトップリーグの選手・チームスタッフに対して講習会を実施し、バレーボール界における更なるドーピング知識の浸透を図った。

2-2-6. 国際交流事業

(1) 国際交流事業

1) FIVB 及び AVC 役員等派遣事業

2024 の役員改選において、FIVB、AVC それぞれの委員会等に候補者を推薦し、以下委員が選任された。

FIVB 関連（順不同、敬称略）任期：2024 年 11 月 1 日～2028 年 FIVB 総会まで

アスリート委員会	柳田将洋
メディカル委員会	荒木大輔
ゲームテクノロジー&イノベーション委員会	川北元
レガシー委員会	古賀紗理那
バレーボールカウンシル	川合俊一
バレーボールカウンシル	高井彩
VNL カウンシル	川合俊一

AVC 関連（順不同、敬称略）任期：2024 年 10 月 1 日～2028 年 AVC 総会まで

スポーツイベント評議会	遠藤俊郎
メディカル委員会	吉澤穰治
レフェリー委員会	小柴滋
コーチ委員会	南部正司
ビーチバレーボール委員会	君島知喜

また FIVB および AVC 主催大会への審判員派遣について、双方のノミネーションに基づいて、バレーボール/ビーチバレーボール各種大会に日本から国際審判員を派遣した。

2) 国際移籍 (International Transfer Certificate)

FIVB ルールに従い、NF として必要な海外移籍の手続きを行った。

2024 年度の実績は 134 件 (海外→日本 76 件、日本→海外 58 件)

2-3. マーケティング

2-3-1. マーケティング事業

JVA の事業を安定的に運営すべく、バレーボールの社会的な価値および JVA が所有する各種プロパティの価値を向上するための適切なプロモーション活動を行い、JVA の目指す方向や各事業にご賛同いただいているパートナー企業やファン、競技者の皆様との紐帯を強化すると共に、新規ファンやパートナー企業の獲得に向けて積極的に活動を行った。

(1) 協賛企業獲得

既存の協賛パートナーやサプライヤー企業には 2024 年度契約内容の実行及びアクティベーション対応による満足度向上を図り、14 社の次年度継続契約を獲得。また新規企業に対してもバレーボールの社会的な価値及び JVA が所有する各種プロパティの価値や社会貢献活動などを訴求ポイントとして積極的なセールスを行い、目標を上回る次年度協賛パートナー契約を獲得した。

(2) グッズ事業

注目度の高い国際大会における日本代表関連グッズの会場販売を実現、加えて JVA の新しいブランディングロゴを活用したグッズ展開とプロモーション、ファンクラブと ID を共通化した E コマース体制の構築など、質・量ともにバレーボールファンに満足してもらえることを目指したグッズ事業を展開。目標を大きく上回る実績を達成した。

(3) 肖像使用許諾事業

日本代表選手への還元を主な目的に、協賛社に広告などへの肖像使用や日本代表映像を使用した映像作品の制作などを対外的に積極的にプロモート。SVL との協業デジタルトレカ事業などの新規事業開発に加え、日本代表の活躍に伴った協賛パートナーによる広告などへの肖像使用が増。例年よりライセンスグッズ契約も多く締結し、結果的に想定を上回る収入実績を達成した。

(4) ファンクラブ事業

今年度唯一の日本開催国際大会となった VNL のチケット最速先行予約を実現、会員特典グッズの充実、グッズ販売サイト及びチケット販売サイトとの ID 統一化による利便性向上、五輪壮行会参加券の抽選販売などの企画実施によって会員数、収益共に目標以上の実績を達成した。

(5) 用具・用品等の公認事業及びその他の公認物品販売事業

全国の幅広い層の競技者の安全と安心を担保するため、国内で販売されるバレーボール用品の公認・推薦事業を行なった。またバレーボールの正しいルールを周知するため公式のルールブックを製作し販売した。

2-4. 社会貢献

2-4-1. 社会貢献活動・環境問題への取り組み

(1) 社会貢献活動・環境問題への取り組み

1) 新プログラム開発

地域と連動した保護者と子供が共に参加できる新しいプログラムを開発する。

→三鷹市の SUBARU 総合スポーツセンターにて本協会が提供したマニュアルに沿って、主催者は日本無線バレーボールチーム、東京都バレーボール連盟。共催が公益財団法人三鷹市スポーツ文化財団で開催した。実施後は本協会ホームページにて実施概要を紹介した。実施回数は、上期に 1 回・下期に 2 回実施した。

2) CO2 排出対策

国際/国内大会開催時に水素カーを利用した CO2 排出対策を実施する。

→ジャパンビーツアー大会の〇〇会場にてトヨタ様の協力を得て水素カーを設置して CO2 排出に寄与した大会運営をカーボンニュートラルマッチとして実施した。

3) ビーチクリーン活動

ビーチバレーボール大会においてビーチクリーン活動を実施する。

→年間 725 人の方に参加いただき、ジャパンビーチバレーボールツアーでビーチクリーン活動を選手会主導で実施した。

(2) 国際貢献事業

1) ボール寄贈事業

→今年の実施はなかった。

2-5. 組織改革

2-5-1. 加盟団体との連携強化

(1) 法人格取得に向けた支援

加盟団体の法人格取得に向けて、サポートデスクの設置を含めた各種支援を実施。また、加盟団体との連携強化を目的として、2023年度から継続して、加盟団体とのオンライン会議を2か月に1回開催し、法人格取得に関する情報提供や研修会などを実施した。2022年6月30日に会長による法人化推進の方針が示されてから、既存の取得団体「12団体」を含む「16団体」が法人格を取得している(2025年3月26日時点)。

(2) 事業間の連携

JVAの各種事業において、相互の連携を図りながら運営にあたる。
→北九州で行われたVNLと天皇杯・皇后杯において競技運営を中心に各事業部と連携し、運営にあたった。

(3) 新Vリーグ支援

新Vリーグの大会告知とマーケティング活動においても支援する。
→今年からSVL・JVLとの連携共同マーケティングを目的とした連携会議を発足させ、継続実施している。

(4) 人材ポートフォリオ・要員計画

事業(業務)ポートフォリオの比較を行い、経営計画との連動により経営計画の実現に求められる人材を確保する。
→各本部長および部長とのミーティングを開催し、リソースの点検と棚卸を実施した。その棚卸の結果を踏まえて、組織の見直しも合わせて実施し、25年度からの組織に反映させた。

以上